

# えりも町百人浜で採集された打ち上げ貝について

小林 真 樹<sup>1)</sup>

北海道えりも町にある百人浜は、えりも岬から東に10キロほど離れた所に位置する。砂浜は幅が約200m、太平洋に面して東西に全長約10キロに渡って伸びている。日本の渚100選にもえらばれた広く美しい砂浜である。ここではこの百人浜に打ち上げられた貝類について述べる。

## 採集について

採集は2003年から2004年にかけて12回、えりも町百人浜で行った。砂浜を歩く距離は広い百人浜の中央付近2キロほど。砂浜の波打ち際付近を重点的に歩く。新しく打ち上げられた貝は、満潮の時に波がかぶる部分から波打ち際付近までに多いためである。百人浜は強い風が吹いていることが多く、数時間前に打ち上げられた貝でも砂がかぶり、採集しにくいことがある。

## 採集された貝について

打ち上げられるほとんどの貝は死貝である。巻き貝の蓋は無くなっており、殻頭部分や外唇が欠けている物が多い。殻皮は残っている。二枚貝は片方の殻のみの採集がほとんどである。

打ち上げられて時間が経った貝は色があせて白色に近くなっている。打ち上げられている貝を採集する際にはなるべく新しく、摩耗が少ない物を選んだ。大時化があった後は生きて打ち上がる貝を採集することができる。こういった貝も回収し標本にした。採集した貝は水洗いをし、乾かしてから袋に入れて保存した。肉がついている貝は、殻ごと煮て肉を取り出し、水洗いした後乾燥させて袋に入れて保存した。

## 貝の種類

採集した打ち上げ貝は、腹足類8科22種、二枚貝類12科22種、計20科44種類を記録した。表1にそれらをまとめた。

百人浜で採集するごとに拾うことができた貝はシログアイ、ユキノカサガイ、エゾフネガイ、アヤボラ、チヂミボラ、チシマバイ、エゾキンチャクガイ、ウバガイ、オオミゾガイ。一度しか採集例のない貝はオオカラフトバイ、ネジボラ、ヤゲンバイ、ミギマキタテゴトナシボラ、オーロラニシキガイである。生きて打ち上がった貝は、アヤボラ、チヂミボラ、ミギマキタテゴトナシボラ、ハブタエタマエガイ、オーロラニシキガイである。

採集した貝類の一部を図3に示した。

## 貝の生息深度

採集した貝を生息している水深別にわけたグラフが図1である。生息している深度は日本近海産貝類図鑑の数値である。これを見ると水深0（潮間帯付近）から10m以下に生息する貝が29種類と全体の約66%を占め、ついで水深20mまでを生息深度とする貝が22種類と50%を占める。水深40m以下になると開示帯の生息深度の幅も広がっており、出現種類数はほぼ一定になり、数も10種類前後に減少する。グラフを見ると水深80m～300mに生息する貝の種類数が若干増えている。これは2004年12月12日に採集された貝が加えられたためである。この日は、前日に海が大きく荒れたせいか、過去筆者が採集していないオオカラフトバイ、ネジボラ、ヤゲンバイを採集した。ミギマキタテゴトナシボラについてはこの日、生きている物を採集することができた。

<sup>1)</sup> 帯広百年記念館 e-mail:chiroptera@nifty.com

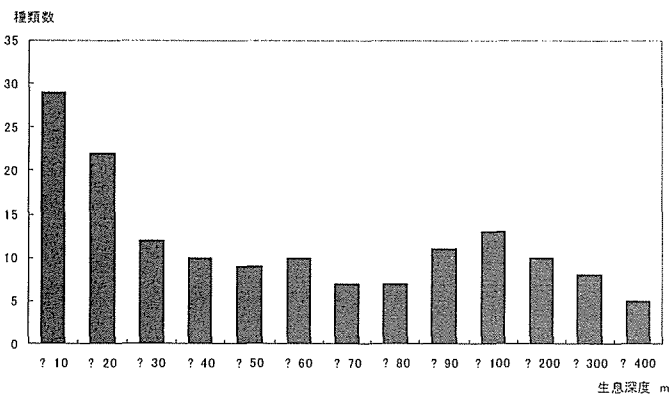


図1 貝類の生息深度

### 貝の生息底質

貝の種類別生息底質（図2）を見ると岩礁に生息する貝の種類が多く、全体の約25パーセントを占めている。ついで細砂底に生息する貝が約13.6%、泥底に生息する貝が11.3%であった。岩礫、砂礫がそれぞれ9%、泥底、砂底がそれぞれ約5%、砂礫泥底が約2%であった。

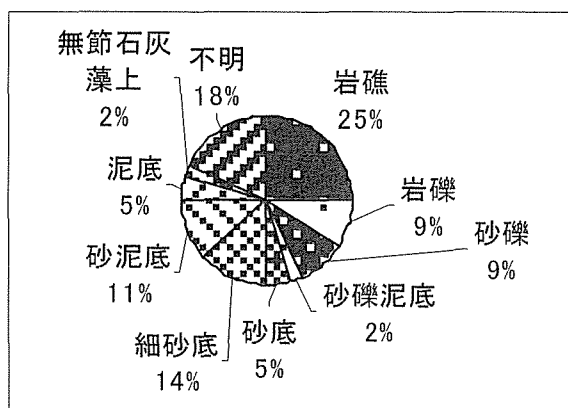


図2 貝類の生息底質

### まとめ

採集された貝類をまとめてみて、百人浜は全長約10キロという長い砂浜であるのに岩場に生息する種類の貝の打ち上げが、はじめに考えていたより多いことが分かった。今回砂浜に打ち上がっている貝の種類ごとの数は数えなかったが、砂浜を歩いていると岩礁、岩礫に生息するユキノカサガイ、シロガイ、チシマバイ、エゾキンチャクガイ、砂底に生息するオオミゾガイ、ウバガイ、アヤボラの殻がよく目に付く。種類ごとにどれだけの数の貝が打ち上がって

いるのか調べられなかったのが残念である。

岩礁、岩礫に生息する貝と砂礫から泥底に生息する貝の割合は1対3である。このことから百人浜周辺は広い範囲で砂礫から泥底の海底が広がっていると考えられる。しかし百人浜の北端に続く海岸線と南側の端の襟裳岬につながる海岸線には岩礁が伸びており、採集した場所から一番近い岩礁まで5キロ離れている。岩礁に生息する貝が流れ着くことから、百人浜の砂浜に打ち寄せる波は5キロ離れた場所の物をうちあげる潮の流れと力を持っているようである。

百人浜のある襟裳岬周辺は風が強いことで有名である。この風の強さと波の関係で、砂浜の様子が天候によってだいぶ異なる。大時化の後には中層に住む貝も、筆者がよく行く十勝の海岸より打ち上がりやすいのではないかと考えている。逆にあまり波が荒かったり、風が強かったりすると、殻高1センチほどのちいさな貝は全く拾うことができない。今後も今まで欠片しか拾っておらず種類の判別ができなかった貝を採集し、種名を明らかにしたいと思っている。

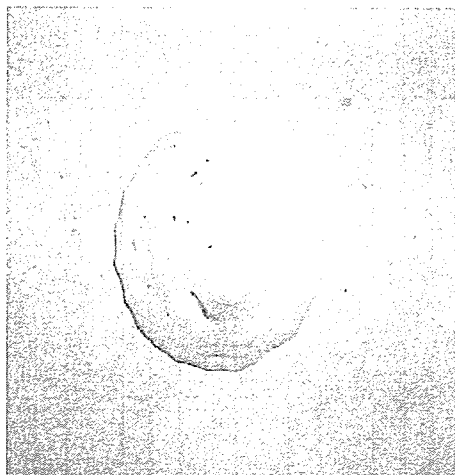
貝の採集にあたり、一緒に歩いてくださったえりも町交流促進センター襟裳岬「風の館」の石川慎也氏と芽室町在住の中司光子さんに感謝申し上げます。

### 参考文献

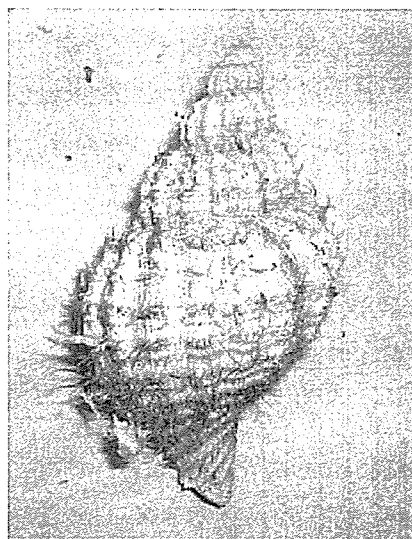
- 奥谷恭司 (2002) 日本近海産貝類図鑑 東海大学出版会
- 吉良哲明 (1983) 原色日本貝類図鑑
- 波部忠重・伊東潔 (1982) 原色世界貝類図鑑 北太平洋編 保育社
- 増田一・林公義・中村宏治・小林安雅 (1987) フィールド図鑑 海岸動物 東海大学出版会
- 山代淳一 (2002) 北海道東部海岸で採集された打ち上げ貝とその特性 釧路市立博物館紀要 第26輯 pp. 13-18.
- R. T. アボット S. P. ダンス (1996) 世界海産貝類大図鑑

表 1. えりも町百人浜で採集された打ち上げ貝

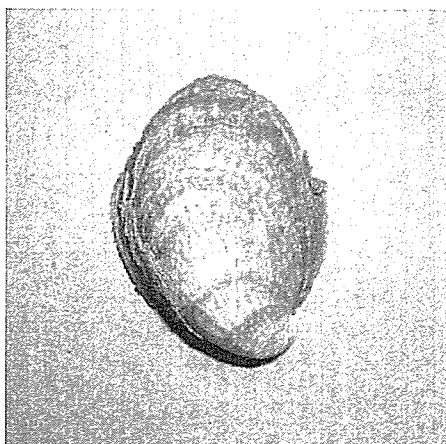
腹足綱	種 名	学 名	生 息 水 深	生息環境
ユキノカサガイ科	シロガイ	<i>Lottia cassis</i> (Eschscholtz)	潮間帯	岩礁
ユキノカサガイ科	ユキノカサガイ	<i>Acmaea (Niveotecture) pallida</i> (Could)	潮間帯下部～20m	岩礁
ユキノカサガイ科	エゾノハナガサ	<i>Erginus sybaritica</i> (Dall)	干潮線下部～10m	無節石灰藻上
タマキビ科	クロタマキビ	<i>Neritrema sitchana</i> (Philippi)	潮間帯中部	岩礁
カリバガサガイ科	エゾフネガイ	<i>Crepidula grandis</i> Midendorff	潮間帯付近岩礁	貝殻上、岩礁
タマガイ科	チシマタマガイ	<i>Tectonatica janthostoma</i> (Deshayers)	20～300m	細砂底
フジツガイ科	アヤボラ	<i>Fusitorion oregonensis</i> (Redfield)	潮間帯下部	砂泥底
アッキガイ科	チヂミボラ	<i>Nucella heyseana</i> (Dunker, 1882)	潮間帯下部	岩礁域
アッキガイ科	エゾチヂミボラ	<i>Nucella freycineti</i> (Deshayers, 1841)	潮間帯下部	岩礁域
フトコロガイ科	コウダカマツムシ	<i>Mitrella tenuis</i> (Gaskoin)	潮間帯～20m	砂礫地
エゾバイ科	オオカラフトバイ	<i>Buccinum verkruzeni</i> Kobelt	50～200m	-
エゾバイ科	チシマバイ	<i>Buccinum chishimanum</i> Pilsbry	潮間帯下部	岩礁
エゾバイ科	ネジボラ	<i>Japelon pericochlion</i> (Schrenck)	80～400m	-
エゾバイ科	ヤゲンバイ	<i>Clinopegma unicum</i> damon (Dall)	100～315m	-
エゾバイ科	ナガバイ	<i>Beringius</i> (Beringion) <i>Polynematicus</i> Pilsbry	300～400m	泥底
エゾバイ科	エゾボラ	<i>Neptunea polycoatata</i> Scarlato	10～1220m	-
エゾバイ科	ミギマキタテゴトナシボラ	<i>Pyrulofusus dexius japonicus</i> Habe, Ito Ito et Tanji	80～180m	-
エゾバイ科	チヂミエゾボラ	<i>Neptunea constricta</i> (Dall)	50～300m	-
エゾバイ科	シライトマキバイ	<i>Buccinum isaotakii</i> Kira	50～300m	-
エゾバイ科	ヒメエゾボラ	<i>Neptunea</i> (Barbitonia) <i>arthritica</i> (Bernardi)	潮間帯～100m	-
エゾバイ科	コエゾバイ	<i>Buccinum polare mirandum</i> (Smith)	潮間帯下部	岩礁
エゾバイ科	エゾバイ	<i>Buccinum middendorffi</i> Verkrusen	潮間帯	岩礁
二枚貝綱	種 名	学 名	生 息 水 深	生息環境
フネガイ科	コベルトフネガイ	<i>Arca boucardi</i> Jousseume	潮間帯～20m	岩礫
イガイ科	キタノムラサキイガイ	<i>Mytilus galloprovincialis</i> Lamarck	潮間帯～10m	基盤
イガイ科	ハブタエタマエガイ	<i>Musculus laevigatus</i> (Gray)	10～400m	泥底
イガイ科	エゾイガイ	<i>Mytilus</i> (Crenomytilus) <i>grayanus</i> Dunker	50mまで	岩礁
イタヤガイ科	エゾキンチャクガイ	<i>Chlamys</i> (Swiftopecten) <i>swifti</i> (Bernardi)	50m以浅	岩礁、砂礫底
イタヤガイ科	オーロラニシキ	<i>Chlamys</i> (Calamys) <i>islandica islandica</i>	30～100m	砂礫底
イタヤガイ科	アカザラガイ	<i>Chlamys</i> (Azumapecten) <i>Farreri akazara</i> (Kuroda)	20m以浅	岩礫底
ナミマガシワ科	ナミマガシワ	<i>Anomia chinensis</i> Philippi	20m以浅	岩礫底
ナミマガシワ科	ナミマガシワモドキ	<i>Monia macrochisma</i> (Deshayes)	40m以浅	岩礫底
イタボガキ科	マガキ	<i>Crassostrea gigas</i> Thunberg	潮間帯～潮下帯	砂礫底
ザルガイ科	エゾイシカゲガイ	<i>Clinocardium californiense</i> (Deshayes)	10～100m	砂泥底
バカガイ科	バカガイ	<i>Mactra chinensis</i> Philippi	潮間帯下部～20m	砂泥底
バカガイ科	ウバガイ	<i>Spisula sachalinensis</i> (Schrenck)	潮間帯下部～30m	砂底
ニッコウガイ科	ベニサラガイ	<i>Megangulus venulosa</i> (Schrenck)	15～50m	細砂底
ニッコウガイ科	アラスジサラガイ	<i>Megangulus zyonoensis</i> (Hatai et Nisiyama)	10～60m	細砂底
シオサザナミ科	エゾマスオ	<i>Gobraeus kazusensis</i> (Yokoyama)	潮間帯上部	砂泥底
ユキノアシタガイ科	オオミゾガイ	<i>Siliqua alta</i> (Broderip et Sowerby)	潮間帯直下～20m	砂底
ユキノアシタガイ科	ミゾガイ	<i>Siliqua pulchella</i> (Dunker)	潮間帯直下～50m	細砂底
マルスダレガイ科	アサリ	<i>Tapes</i> (Amygdalum) <i>Philippinarum</i> (A.Adams et Reeve)	潮間帯中部～10m	砂礫泥底
マルスダレガイ科	ヌノメアサリ	<i>Protothaca</i> (Novathaca) <i>euglypta</i> (Sowerby)	潮間帯	砂泥底
マルスダレガイ科	エゾヌノメアサリ	<i>Callithaca adamsi</i> (Reeve)	潮間帯直下～20m	細砂底
マテガイ科	エゾマテガイ	<i>Solen krusensternii</i> Schrenck	5～30m	細砂底



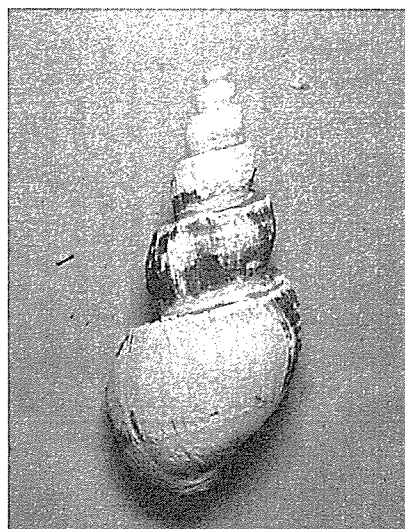
ユキノカサガイ



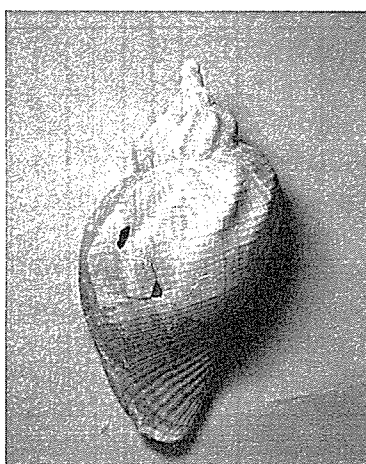
アヤボラ



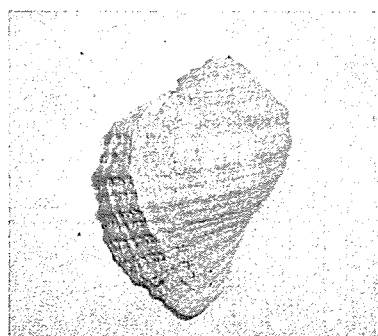
エゾフネガイ



ネジボラ

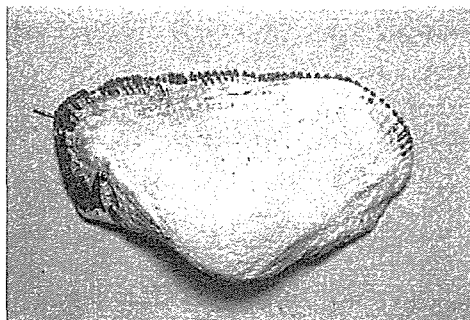


ミギマキタテゴトナシボラ

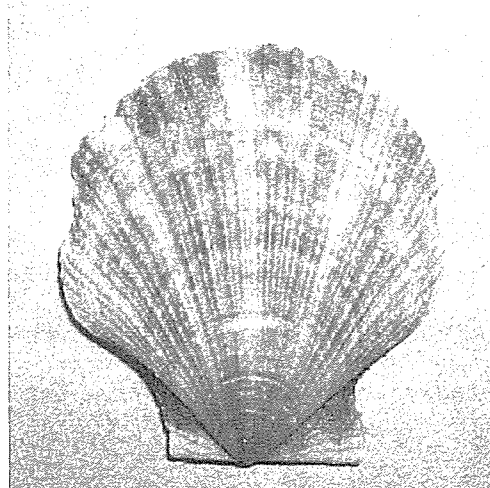


エゾチデミボラ

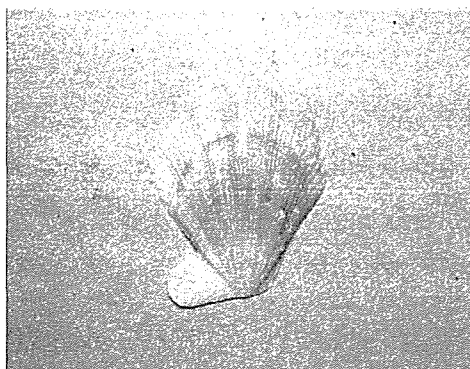
図3-1. えりも町百人浜で採集した貝類 (打ち上げ貝 その1)



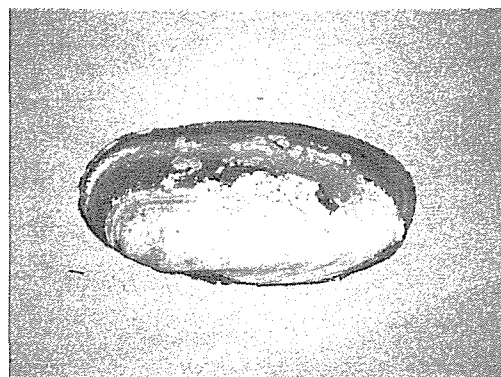
コベルトフネガイ



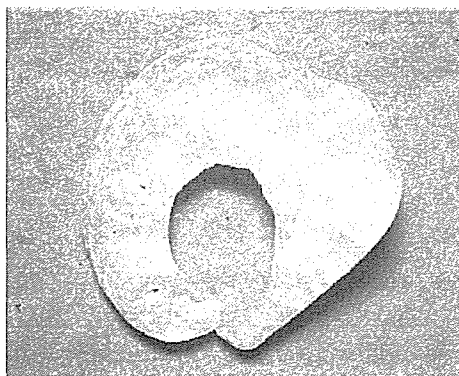
オーロラニシキガイ



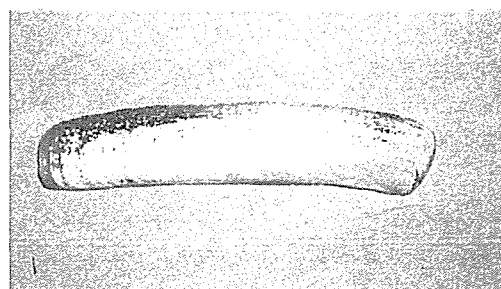
エズキンチャクガイ



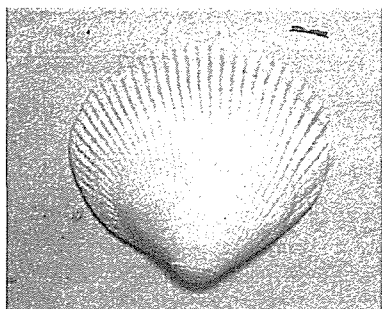
オオミゾガイ



ナミマガシワモドキ



エゾマテガイ



エゾイシカゲガイ

図3-2. えりも町百人浜で採集した貝類（打ち上げ貝 その2）

